



ブランド商店街あいち

覚王山商店街振興組合

(名古屋市千種区)



和の中に異国情緒が漂うアートな商店街

【立地・歴史、取組みの背景】

覚王山日泰寺につながる参道を中心に門前町として発展してきた商店街。地下鉄駅にも近く交通の便のよい、高級住宅も多い住環境に恵まれたエリアにある。毎月21日には「弘法縁日」が開かれ、高齢者を中心に多くの人で賑わう活気ある商店街。

しかしながら、やはり近年の社会経済情勢の変化とともに、長く続いた道路拡幅工事などの影響も受け一時は130名程度あった構成員数も現在は90名弱となるなど、昭和後期から平成にかけて、低迷傾向にあった。

【特徴ある取組み】

春、夏の「覚王山祭り」(H9～)、秋の「参道ミュージアム」(H13～)

平成に入って、覚王山独特の景観や雰囲気を活かしたイメージ戦略に基づくまちづくり活動が始まる。タイ(旧シャム国)ゆかりの日泰寺から「エスニック」、その長い参道や古い住宅から「レトロ」、高級住宅地であるとともに、文教地区という土地柄から若者向けの下宿やアパートが存在し、若いクリエイターも多く居住していたことから「アート」の基本コンセプトが導き出された。活性化に向けたこの具体策として、春、夏の「覚王山祭り」、秋の「参道ミュージアム」のイベントを実施、街の賑わいづくりを実現してきている。



覚王山アートマップ（H9～）、覚王山新聞の発行（H11～）

また、イメージ戦略のもう一つの柱として、アーティスティックな商店街マップや覚王山新聞（毎月）を発行。イラスト缶バッジなどオリジナルお土産商品の企画開発にも取り組んでいる。イベント実施を始め、空き店舗への戦略的誘致活動などの取組みが街のイメージアップにつながり、このコンセプトに沿った魅力的な出店も見られるようになり、イベント開催時以外にも、街を訪れる人が増えつつある。



【取組みのポイント】

- ・商店街とアーティストやクリエイターの接点として「情報館」と「ギャラリー融」を設置。これらは主に商店街の事業部によって運営され、商店街と街づくりに関心のある人たちが、まさに一体となって活動する体制が構築されている。

【今後の課題、方向性など】

- ・ソフト的なイメージ戦略の充実とともに今後は、さらに「参道」を活かすような景観整備、ハード事業も必要と考えている。
- ・参道と広小路通沿いでは同じ商店街であっても若干温度差があることから、この解消につながる取組み。

〒464-0064 名古屋市千種区山門町1丁目47番地の1

覚王山商店街振興組合 理事長 金森 武司

(連絡先) 専務理事 原田 忠直、事業部長 鈴木 伸治

電話 052-751-8686 ファクシ 052-751-8686

URL <http://www.kakuzan.com/top.html>